

# 「高雄曼荼羅」 染料は紫根

朝廷の関与裏付け

京都国博

京都国立博物館は、国宝に指定されている「紫綾金銀泥絵西界曼荼羅図」(高雄曼荼羅)の文様の染料に植物のウツキの根(紫根)が使われていたと発表した。高雄曼荼羅は平安時代前期、淳和天皇の発願で制作されたとされ、同館の大原嘉豊教育室長は「紫根は当時、使用が禁止されたこともあるほど貴重だった。今回の結果は、制作への朝廷の関与を裏付けたい」と話した。

神護寺(京都市)が所有する高雄曼荼羅は、損傷が進んでいたため、2016年7月から約5年半

かけて修理された。20年6月の赤外線を使った調査で染料に紫根がっていた。

同館は、修理前に神護寺から提供を受けていた曼荼羅の織維片の成分の分析を、宮内庁正倉院事務所に依頼。同事務所が調べた結果、織維片から紫根が原料の「シコニン」が検出された。調査結果について、神護寺の谷内弘照貫主は「高雄曼荼羅の素晴らしさをよく多くの人に知ってほしい」と語った。

国宝に指定されている高雄曼荼羅の胎蔵界(岡墨光堂提供)

